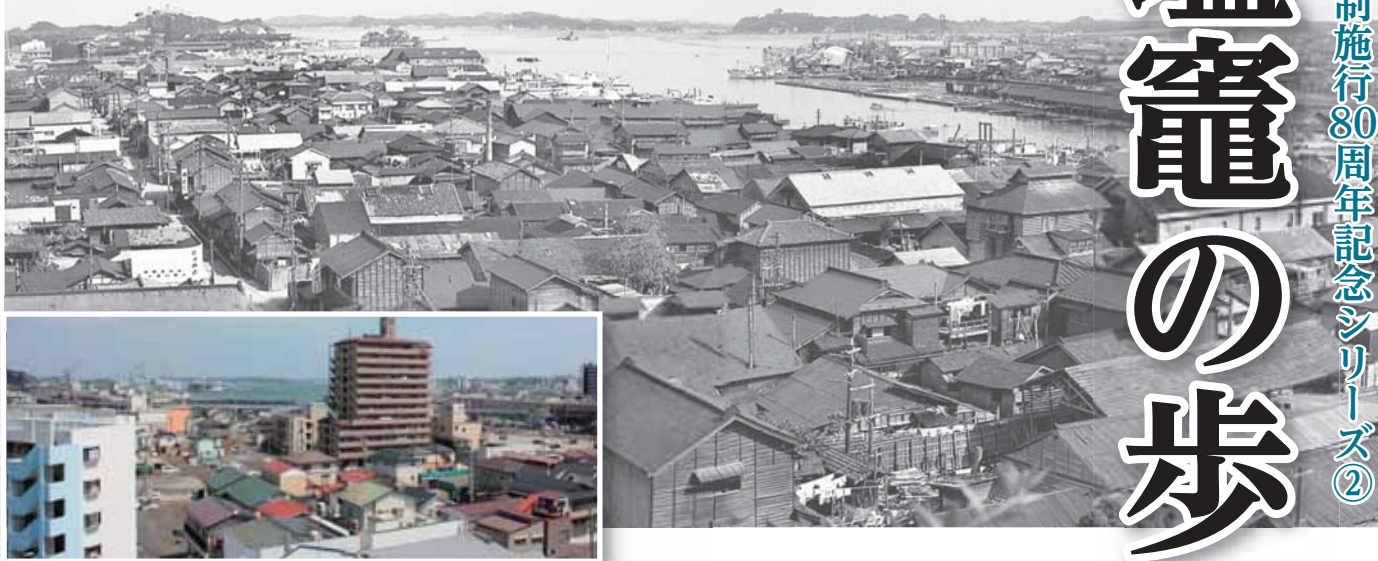


塩竈の歩み

昭和25～30年頃の塩竈(北浜付近から撮影)



産声をあげたばかりの塩竈市。市制施行から半月後に太平洋戦争が開戦します。その時代背景のなか市民歌は制定されました。今月は長年謎に包まれていた市民歌作詞者を紹介します。

作詞者は、昭和に活躍した
福岡県出身の大衆作家



提供：広橋由紀子さん
▲市民歌作詞者「櫻井宏」こと渋谷喜久雄氏



市民歌は、市章と同時に歌詞が公募され、886点の中から、櫻井宏氏の作品が選ばれました。

実は「櫻井宏」はペンネームで、その正体は昭和初期の大手大衆誌『キング』の看板作家として『渋谷黎明花』名義で活躍した渋谷喜久雄氏(1902～1978)でほぼ間違いないことがわかりました。渋谷氏は福岡県古賀町(現：古賀市)出身で、おもに時代小説を発表、作品が映画化されるなど、戦前は東京を拠点に活躍しました。渋谷氏は、市民歌入選について東京日日新聞に「私の拙い作品が当選したとは誠に嬉しい極みで感激に堪えません、塩竈は嘗て農村小説取材のため東北地方を旅行した際みきました。(中略)母が生きていてくれたらどんなに喜んでくれたでしょうに：戦地の弟にも早速知らせてやりましょう」と感想を寄せています。歌詞の「光湧きたつ蒼潮」「魚鱗は踊る」「伸びゆく航路」などは、実際に塩竈を見たときのものを表現したのかもしれませんが。戦後は地元広報紙へコラムを連載したほか、さまざまなペンネームを使い分けて全国の自治体歌、校歌やCMソングを手がけました。代表作には『東北振興歌』や『健康児の歌』、市民歌と同じ古閑裕而氏作曲の『納税奉公の歌』があります。市民歌は昭和の一流作家・作曲家の作品として、とても貴重な歌です。皆さんも当時の情景を想像しながら市民歌を鑑賞してみませんか。

取材協力：広橋由紀子さん(福岡県宗像市鐘崎在住)

福岡県古賀市 橋岡昌幸さん(兵庫県姫路市在住)

福岡県古賀市

参考文献：酔筆講談ペン一本無茶修行(橋岡昌幸編集)



▲市公式 Youtube 「塩竈市民歌再現動画」

～まちのできごと～

- 1941年 市制施行、開戦
- 1942年 市章、市民歌制定
- 1945年 終戦、市立病院設置
- 1948年 塩竈に海上保安部設置
- 1950年 浦戸村合併

巨人軍が塩竈に！

戦後のまちを盛り上げようと塩釜野球協会が企画。巨人対松竹(現横浜DeNAベイスターズ)の2軍戦が現在の塩釜高校で開催された。(広報しおがま令和元年10月1日号に当時の思い出とともに掲載)



昭和25年(1950年)撮影